

千代田区 一般廃棄物処理基本計画

計画年度：令和7(2025)年度～令和16(2034)年度

2050 ゼロ・ウェイストちよだ

区民、事業者、区が連携・協働し、2050年までに無駄や浪費をなくし、ごみを極力出さない、焼却量や最終処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロ・ウェイスト社会」の実現を目指します。

計画策定の趣旨

本区では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条に基づき、区民・事業者・行政が連携して循環型社会の形成に貢献するための指針として、「千代田区一般廃棄物処理基本計画」を策定してきました。令和6(2024)年度においては、社会情勢や環境の変化に対応し、より効果的で持続可能な廃棄物処理体制を構築するために、第5次基本計画を策定します。

計画の位置づけ

本計画は、「千代田区第4次基本構想」を上位計画とし、整合を図りながら総合的・一体的推進を目指します。また、「食品ロス削減推進計画」と合わせて廃棄物の削減と循環型社会の実現を目指します。本計画の推進により、「千代田区気候非常事態宣言」に掲げた令和32年までにCO₂排出量実施ゼロを目指す「2050 ゼロカーボンちよだ」の実現に資するものとなります。

区のごみの課題

課題1 家庭系ごみの課題

令和元(2019)年度以降、家庭ごみ排出量が増加し高止まり。ごみ処理コストや環境負荷が懸念され、人口増加と外国人住民の増加により、ごみ出しルール遵守や分別方法理解が課題。多言語対応や教育プログラムが必要。

課題3 事業系ごみ

本区では昼夜人口比率が高く、事業系ごみが90%を占めるため、事業系ごみ削減が重要である。特に大企業への対応が必要。新型コロナ後、ごみ排出量が増加しており、分別促進と支援体制の強化、紙ごみ再生利用の向上が課題。

課題5 区民や事業者への効果的な情報提供と意識啓発

本区ではごみ削減に向けた取り組みが進められているが、区民や事業者への具体的な啓発と情報提供が課題。目標の見える化が不足しており、積極的参加が進んでいない。特に若年層・外国人観光客へのアプローチが課題。

課題6 ねずみやカラスへの対策

本区では生ごみがねずみに荒らされる問題が増え、衛生環境に懸念が広がっている。集合住宅や商業地域での被害が増加し、ねずみやカラスによるごみ荒らしが環境美化に悪影響を及ぼしている。これらは繁殖力が高いため、適切な対策が必要。

課題2 食品ロス

本区では、食品ロス削減の啓発やフードドライブを推進し、令和5(2023)年度に計画を策定したが、情報提供方法の改善や効果的な啓発手段の導入が進展していない。国の新たな削減目標に向けて、事業者の協力を得ることが課題。

課題4 インバウンドへの対応

特に秋葉原地域では、外国人観光客の増加に伴い、ごみのポイ捨てなどのマナー問題が深刻化している。ごみ箱の設置や多言語対応のマナー啓発が必要であり、区全体の環境美化や衛生管理への影響が懸念される。

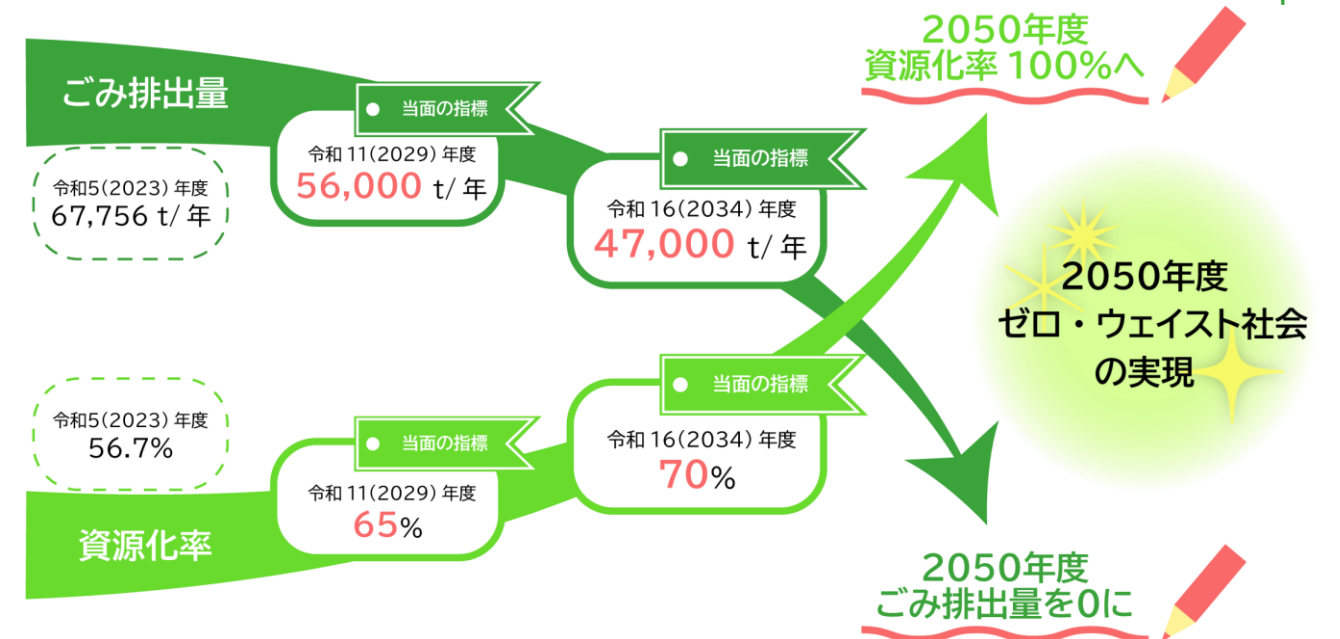
課題7 災害廃棄物

「千代田区災害廃棄物処理計画」は令和5(2023)年に策定されたが、実際の災害時に迅速かつ効果的に運用できるかが課題。分別や収集のスムーズな実施・企業との連携・区民や事業者への啓発活動の強化が必要。広大な保管場所や輸送体制の確保も課題。

基本方針



目標値



区民1人1日あたりのごみ排出量



具体的には…水切りの徹底で約25g削減！レジ袋の辞退で約4g削減！等

施策体系



基本方針

1

ごみの発生抑制と、メーカーへ製品開発を促す上流対策の促進

施策
1

廃棄物の発生抑制

取り組み内容

- 1-1. 消費段階での発生抑制の促進【継続】
- 1-2. 食品ロス削減【継続】
- 1-3. レジ袋の削減、マイバッグの推進【継続】
- 1-4. 拡大生産者責任の徹底【継続】
- 1-5. ごみ処理コストの見える化【継続】
- 1-6. 収集手数料有料化の検討【継続】

施策
2

リユース・修理の推進

- 1-7. リユース食器の利用促進【拡充】
- 1-8. リペアの推進【新規】
- 1-9. 民間団体等との連携【継続】

施策
3

メーカー等への要請

- 1-10. 生産・流通販売段階での取り組み【継続】
- 1-11. 商習慣の見直しに向けた検討【新規】
- 1-12. 廃棄物削減による効果の見える化【新規】

施策
4

不適正排出の管理

- 1-13. 不適正排出対策【継続】
- 1-14. ふれあい収集の充実【継続】
- 1-15. 収集時の指導を強化【継続】
- 1-16. マンション等におけるごみ減量指導の徹底【継続】
- 1-17. 一般廃棄物収集運搬業者への指導・助言【継続】

施策
5

ねずみやカラス等への対策

- 1-18. ねずみやカラス等への対策の推進【新規】

基本方針

2

資源循環の更なる促進

施策
1

リサイクルと資源回収の
拡充

取り組み内容

- 2-1. 粗大ごみの有効活用【継続】
- 2-2. フリーマーケットの支援【継続】
- 2-3. プラスチックの循環システム【新規】
- 2-4. 紙類の分別・資源回収【拡充】
- 2-5. 古着の資源回収の拡大【新規】
- 2-6. 蛍光管の資源回収【拡充】
- 2-7. マンション等の資源の集団回収の充実【拡充】

施策
2

施設および機能の充実

- 2-8. リサイクルセンターのあり方の検討【新規】
- 2-9. スマートごみ箱の検討【新規】
- 2-10. 共同での資源回収システムの構築【新規】
- 2-11. 環境配慮型清掃車両の導入促進【継続】

施策
3

その他の資源循環施策

- 2-12. 使用済小型家電の回収【継続】
- 2-13. 園芸土の資源回収【継続】
- 2-14. 不燃物からの有害物を分別【継続】
- 2-15. 不燃物からの資源物を分別【継続】
- 2-16. 生ごみ(厨芥類)のリサイクル【新規】
- 2-17. 使用済紙おむつのリサイクル【新規】
- 2-18. 千代田区にふさわしい循環圏の構築【継続】

基本方針

3

ライフスタイルや事業活動の見直しを促す情報発信の推進

施策
1

コミュニティおよび協働の
推進

取り組み内容

- 3-1. 地域コミュニティとの協働【継続】
- 3-2. 企業やNPO、大学等との連携と協働【拡充】
- 3-3. 公共空間におけるごみ箱の統一ラベルや分別ルールづくり【継続】
- 3-4. 千代田エコシステム(CES)の推進【継続】
- 3-5. 地域や学校の情報交流【継続】
- 3-6. CCC(千代田・クリーンアップ・クルー)活動【継続】
- 3-7. ごみ削減に向けて区民アイデアコンテストの開催【新規】

施策
2

教育と普及啓発

- 3-8. 環境教育等におけるPR【継続】
- 3-9. イベント等を通じた環境学習の推進【継続】
- 3-10. 環境学習・環境教育の推進【継続】
- 3-11. 区役所職員に対する意識醸成【新規】
- 3-12. 普及啓発活動の推進【継続】

施策
3

情報発信の強化

- 3-13. ごみ分別アプリ「分けちよ!」の機能拡充【拡充】
- 3-14. 広告型給水スポットステーションによる脱ペットボトル【新規】
- 3-15. 都と連携した資源循環施策【拡充】
- 3-16. 全国食品ロス削減大会の招致【新規】
- 3-17. メディアを通じた啓発活動の推進【新規】
- 3-18. 広報の充実【拡充】

基本方針

4

事業系ごみの更なる削減

施策
1

事業系の紙ごみや生ごみ
の削減

取り組み内容

- 4-1. 事業系古紙回収協力事業所制度の検討【新規】
- 4-2. 機密文書処理の支援検討【新規】
- 4-3. 食品廃棄物の発生抑制【新規】
- 4-4. 事業者と連携した食品ロスの削減【新規】
- 4-5. 食べ残しの持ち帰りの推進【新規】
- 4-6. フードシェアリングの推進【新規】
- 4-7. 食品廃棄物の循環システム【継続】
- 4-8. 事業系生ごみ処理機設置助成の創設【新規】
- 4-9. 千代田区本庁舎食堂での生ごみの削減【新規】
- 4-10. 事業者連携によるごみ削減推進プロジェクトの創設【新規】

施策
2

事業者への対応

- 4-11. 事業用大規模建築物の指導強化【継続】
- 4-12. 事業用大規模建築物の所有者等に対する優良な取り組みへの表彰制度【継続】
- 4-13. 事業者の規模に応じた施策の展開【継続】
- 4-14. 千代田エコシステム(CES)を活用した商業施設のエコマーク取得促進【新規】
- 4-15. 事業所・商店街における資源化の推進【継続】
- 4-16. 小規模事業者の立ち入り指導【継続】

計画の進行管理



本計画では、バックキャスティングに基づき長期的なビジョンを描きつつ、PDCA サイクルを活用して現実的かつ持続的な進行管理を行い、本区が「2050 ゼロ・ウェイストちよだ」と資源循環型社会の実現に向けて着実に前進していきます。

発行年月 令和7(2025)年3月
編集・発行 千代田区環境まちづくり部 千代田清掃事務所 〒101-0021 千代田区外神田1-1-6
TEL:03-3251-0566 FAX:03-3251-4627